

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：山本・奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

平成29年度 病害虫発生予察情報 技術資料第2号

平成29年4月3日

島根県病害虫防除所

イチゴにおけるハダニ類の発生状況について

現在、イチゴのハダニ類の発生がほ場毎に大きく異なっており、発生量の多いほ場と少ないほ場が混在しています。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など適切な防除対策をお願いします。

1. 現在の発生状況

- 1) 平成29年3月下旬の巡回調査における発生はほ場毎に大きく異なった。発生ほ場率は100%（平年50.7%）、寄生株率は56%（平年16%）と全般に発生量は多かったが、ほとんど発生がないほ場も認められた。
- 2) 1ヶ月予報（3月30日広島地方気象台発表）によると、向こう1か月の気温は低い確率が40%であるが、ハダニ類の発生には十分に注意が必要である。

2. 防除対策および防除上の注意事項

- 1) 薬剤散布を行う場合は、事前に葉かきを行い、葉裏に薬液が付着するよう十分な液量を丁寧に散布する。
- 2) 取り除いた葉をほ場内に放置すると葉に寄生していたハダニ類が他の株に移動するため、取り除いた葉は必ず施設外に持ち出し、袋に入れるか埋設、焼却するなど適切に処分する。
- 3) 薬剤の選定に当たってはミツバチ等訪花昆虫への影響を十分に考慮する。
- 4) 薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用法・注意事項を確認のうえ使用する。また、薬剤散布は周辺作物への飛散に十分注意する。
- 5) 表1に示した薬剤は防除効果の低下が見られる場合があり、薬剤散布後はルーペ等を用い、必ず効果の確認を行う。防除効果が不十分な場合は表1に記載した別のIRACコードの薬剤を使用するか、表2の気門封鎖剤を使用する。



左：寄生状況（カンザワ）、右上：ナミハダニ雌成虫（体長約0.4mm）、右下：カンザワハダニ雌成虫（体長約0.4mm）

3. 薬剤防除（農薬登録内容は平成29年4月1日現在）

使用の際は同一系統（IRACコード）の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴのハダニ類に使用できる主な薬剤

系統 ※ IRACコード	薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
3A	ロディー乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内
6	アフーム乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内
6	コロマイト水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内
10A	ニッソラン水和剤	2000～3000倍	収穫前日まで	2回以内
10B	バロックフロアブル	2000倍	収穫前日まで	1回
12D	テデオン乳剤	500～1000倍	収穫3日前まで	2回以内
20B	カネマイトフロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで	1回
20D	マイトコーネフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内
21A	サンマイトフロアブル	1000～1500倍	収穫3日前まで	1回
25A	スターマイトフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
25A	ダニサラバフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内
25B, 21A	ダブルフェースフロアブル	2000倍	収穫前日まで	1回

※IRACコードとは殺虫剤を作用機構別に分類してつけられたもので、同じIRACコードの薬剤を連用すると殺虫剤抵抗性の発生リスクが高まるので、薬剤選択の際は注意する。なお、IRACコードについては農薬工業会ホームページで最新の情報が確認できる。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/lab0/mechanism.html>

表2 イチゴのハダニ類に使用できる主な気門封鎖剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
粘着くん液剤	100倍	収穫前日まで	-
サンクリスタル乳剤	300～600倍	収穫前日まで	-
フーモン	1000倍	収穫前日まで	-
※1還元澱粉糖化物液剤	100倍	収穫前日まで	-

※1薬剤名は一般名であり該当薬剤は複数あることから使用に当たっては登録内容をよく確認する。

※2気門封鎖剤は薬剤抵抗性の発生リスクが低く、使用回数に制限がないため連用できる。しかし、ハダニ類に直接十分量が付着しないと防除効果がないため、丁寧に散布する必要がある。また、殺卵効果や残効性もないため、3～7日間隔で複数回散布する。なお、薬害の発生を避けるため、高温時や薬液が乾きにくい夕方の散布は控える。